

1. 動機

動画サイトにアップロードされていた、有名人の声を切り抜いてリズムや音程を合わせることで疑似的に歌わせる動画を見たことで、自分もやってみたいと思ったため。

2. 使用したソフトウェア

Audacity

ボーカルキャンセラー 2

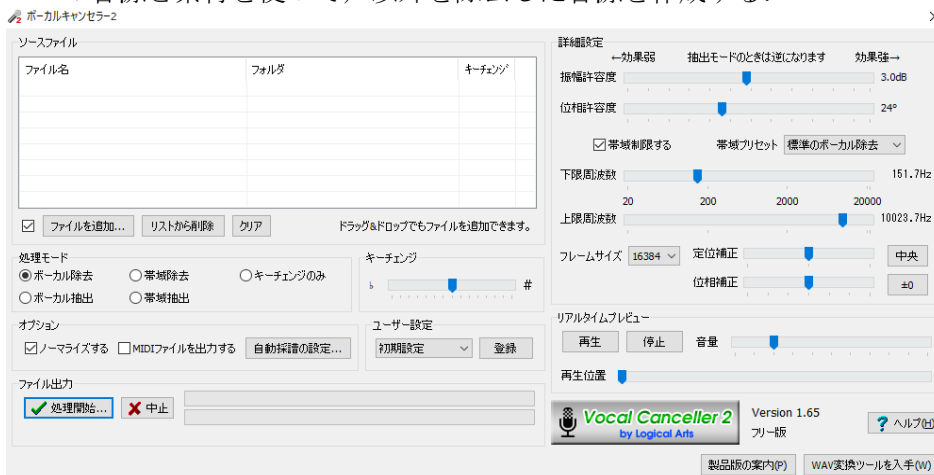
歌声りっぷ

3. 作業日程

- 1 学期 音源の収集・加工など、基礎についての学習
- 2 学期 ボーカル音源の作成
- 3 学期 発表の準備

4. 制作過程

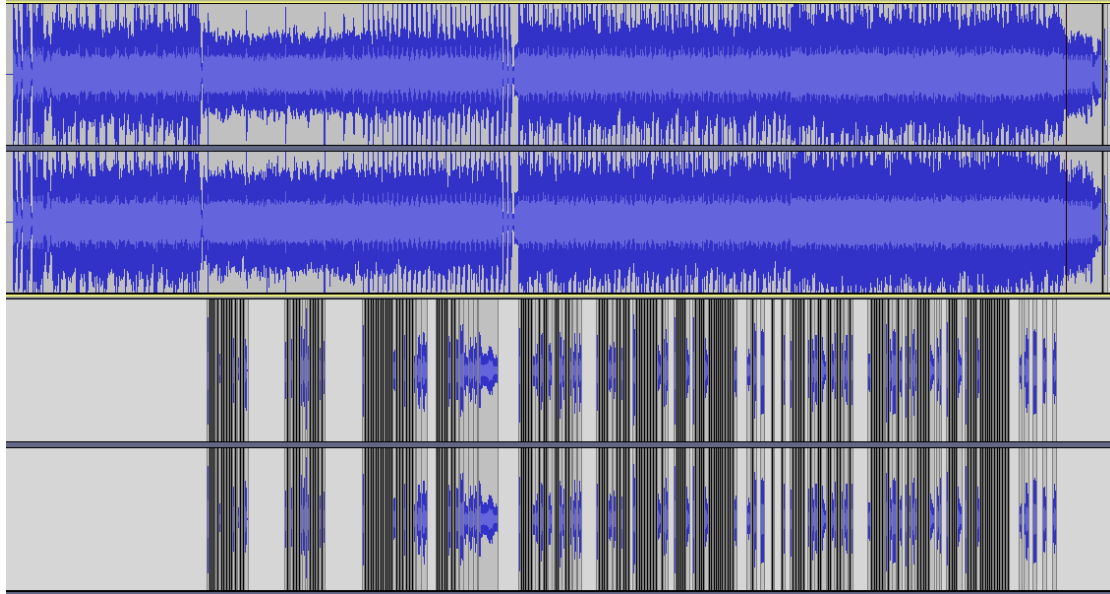
- (1) Youtube をはじめとする動画サイトやCDからの読み出しなどで、歌やトーク音声などの素材を wave ファイルで用意をする。
- (2) ボーカルキャンセラー 2 で素材の声だけを除去した音源を作成し、歌声りっぷでその音源と素材を使って声以外を除去した音源を作成する。



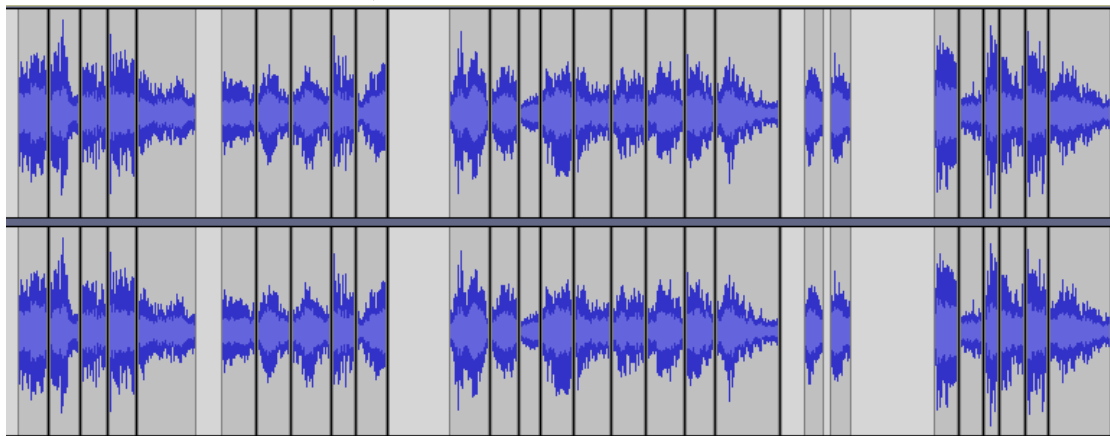
(3) Audacity に音源をインポートし、楽曲を作成する上で必要となる音素を切り抜いていく。

(4) 歌詞やリズムに合わせて音素を配列していき、ピッチを調整してボーカル音源を作成。instrumental 音源(別名:カラオケ音源, オフボーカル等)とボーカル音源を合わせてエクスポートを行うことで楽曲として完成する。

図① 上段2つ instmental 音源, 下段2つ 配列済みの音素



図② 配列済みの音素を一部、拡大したもの



※上2枚の波形画像についての補足

- ・2段を1セットとしているのはステレオで取り扱っているため。
- ・図① 下段 配列済みの音素にて、音素を配列していない大きな空白がいくつか存在しているのは、前奏や間奏などの歌詞がない秒間であるため。

5. 感想

音素の確保・配列、ピッチの調整までをすべて人力で行った、というのはとても良い経験になったと考えている。先駆者や実際に業界で働く人たちがいかに知識・技術・ノウハウを身につけているかを思い知らされるとともに、苦勞の一端も知ることができたように思う。

心残りとしては、原曲通りのボーカルを作成できなかったことが挙げられる。音素のピッチを大きく変えることで声らしさも大きく損ねてしまうため、私個人の裁量で調整せざるを得なくなってしまった。

以上に伴った反省点として、素材として用意した楽曲が1曲であったことを挙げる。音素ごとにいくつかピッチのバリエーションを用意できていれば、より原曲に近いボーカルを再現できたことは想像に難くない。音素を切り抜く際は歌詞だけでなく、ピッチも意識することが大切だと早く気付くべきだったと強く感じている。